

噴水

早村 春鶴

噴水の上がりつめては碎け散る
天そそる雲の峰伸びピアノ鳴る
振り返る山の樹々見て秋近し
公園の百日白※ひやくにちしろに人憩ふ
日焼田の日毎に色の失せにけり

夏帯

山本 春英

梅雨明けの寺院の薨光りけり
噴水の木々を見下ろしはねかえる
束の間に変わっておりぬ雲の峰
噴水のやさしく崩るまで強く
夏帯やすつきり立ちし京舞妓

朝焼け

森本 智子

カンナ炎ゆ父母同胞憶はるる
朝焼けの消へて町並み目覚めたり
噴水や出合ひ別れの往き交へり
真夏日や生垣根方猫占拠
犬伽藍跨ぎて聳ゆ雲の峰街

モンゴルにて

坂井 白萩

空港を照らすや蒙古夏の月
大草原映へる精悍日焼顔
むちを打つ幼き騎手の日焼顔
家畜※らも動かぬままの炎天下
雨柱大夕焼を惨ませり

※百日白＝白いさるすべりのこと。百日
紅は赤い花のこと

※雨柱＝大夕立のこと。景色がかすむ程
の大雨

